

西南小の風 「出来る子」より、「出来た子」に

だれかのために じぶんのために いっしょうけんめい



専大玉名高校吹奏楽部による本校校歌の演奏動画を学校HPにアップしました。ぜひご覧くださいね。

学校評価へのご回答ありがとうございます。今、回答フォームの最後にある「ご意見・ご要望等」のところを、ドキドキしながら読んでいました。

そこには、今後も保護者の皆さまと共に取り組んでいきたい内容もありましたので、ここでは、登校班とあいさつすることについて、校長としての見解をお伝えしたいと思います。

○登校班のこと

困っておられる保護者の方が少なくないようです。しかし、現状多くの登校班が仲良く登校しています。面倒見の良い班長さんもたくさんいますし、そんな班長さんに甘え頼りにしている低学年の児童は多いです。一方で、明らかに登校班で登校していない児童もいます。「班長が来ません！」という声も聞きます。八時過ぎに一人で登校する児童も少なくありません。高学年の児童はともかく、黄色い帽子の一年生が二人とか一人で登校してくる様子を見ると不安になります。

登校班は安全に登校するための組織です。そして、地域の子どもたちの縦の関係の中で、安全を守る行動を学ぶ場でもあります。全ての登校班が目的どおりにうまく回ることにはしたことはないのですが、学びの場であるという一面があるだけに、うまく班をまとめることや、集団行動がうまくいかなくて、登校班が機能しないというのも当然あることです。うまくいっていない登校班をどうにかしようと思っておられる保護者の方ほど、悩んでおられるのだと思います。ありがとうございます。登校班の改善について必要あれば、ぜひ学校へもご相談ください。今後も登校班を見守り、我々と共に指導いただけたらと思います。

登校班のない学校もある中で、登校班制度は本校の誇りです。当たり前のように思っている日々の子どもたちの安全や成長が、この登校班によって生み出されている面が必ずあります。

○あいさつのこと

「あいさつをしない」という声はよく聞きます。この学校評価にもありましたし、地域の方に言われることもあります。その一方で、「とてもよくあいさつをしてくれる」という声も聞きます。どっちなんでしょうか。

私が登校指導をしてきた中で感じているのは、挨拶する気がない子どもはほほいしないということです。自分から大きな声で挨拶する子もいれば、大きくはつきりと返す子、小声の子、声にならない子など様々です。そして、声もない表情も変わらない子でも目が泳いでいたりします。あいさつを返さなきゃと思っても、照れや、気分、体調などの理由で返せない、のかもしれないです。高学年はやろうと思えば全員出来るはずだと思います。中学生も同様です。でも、思春期だからしない子はしません。それでも、受験面接ではバッチリやります。しかも数年後、成人するものすごく丁寧に挨拶され、その成長にビックリすることもしばしばです。子どもは成長の過程で、あいさつの必要感や良さを感じればするようになります。逆に、あいさつほど強引にさせても身につかないものはありません。

朝から見守っていたいて、せっかくなのであいさつをしているのに、あいさつが返ってこないのがっかりしますよね。でも、そんな思いの中でも根気強く見守ってくださいね。あいさつで声かけをしていただいているから、きっと子どもたちは成長していると思います。

おそらく、「あいさつをしない」と感じられている方も、「とてもよくあいさつをしてくれる」と感じられている方も、同じ子どもたちを見ての感じ方だと思えます。学校では、実は後者の方が指導がしやすく効果的です。

「とてもよくあいさつしてくれる」と〇〇さんに褒めていただきましたよ。もっと喜んでもらえるようにあいさつをしましょうね。」

褒めた人の印象も良くなるし、子どもも嬉しくなるし私たちも言いやすいし、ウィンウィンウィンで、だれも損しません。だから、たまに私がねつ造することもあればこだけの秘密です。

これからも、保護者・地域の皆さまと子どもたちの良い部分を見つめながら伸ばしていきたいと思っています。根気のいることですし、ご苦労をおかけすることでもありません。でも、学校だけではできないことなのです。「出来る子」よりも、生きる力をもったいわゆる「出来た子」を育てたいと思っています。温かい励ましや高く評価して下さる言葉も、厳しいご意見・ご指摘もいただきました。しっかりと今後の学校運営の参考とさせていただきます。